

筆者が 1954 年に昆虫少年を始めた高知市五台山周辺や市街平地でキバネセセリには会えなく、大豊郡梶が森まででかけ、海拔 7-800m の仏嶽寺周辺まで登って初めて見ることができる希少種であり、今でも高知では山岳部でしか出会わないチョウに変わりはない。これは幼虫が成育する食樹であるハリギリが山地性の植物であるためだと思われるが、そのハリギリの生育分布についてはよく知らない。

2000 年の 7 月、北海道丸瀬布の林道でツル性植物の白い花に集まる本種の大乱舞を体験したが、一般的に同一場所で多くの個体を観察できるような種ではなく、その撮影記録も簡単には残せずにいた。

2014 年 7 月 23 日、大鹿村地蔵峠経由で訪れたしらびそ峠から、左へと伸びる最近ではほとんど人が入りこまないと思われる瓦礫だらけの道を歩くと、左手山側は赤茶色の岩肌が目立つ険しい崖で、右側はいきなり深い谷を形成する断崖絶壁で、行動には十分注意が必要な環境が続く。その山側斜面にはウツギの白い花が多く、ミドリヒョウモン、ウラギンヒョウモン、ギンボシヒョウモン、ウラギンスジヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、ミヤマカラスアゲハなどに

混じって、本種も楽しげに蜜を求めて飛び回っている光景が展開している。崩れ落ちそうな斜面に足をかけ、吸蜜中の♀個体にできるだけ接近してビデオ撮影を



し、その静止画像をきりとり初めて翅表の白紋列を確認できる。

せっかくだから、同じ日に撮影記録できたウラギンヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、ミヤマカラスアゲハなどの吸蜜シーンを示しておこう。

